



1. 青年海外協力隊って？

☆開発途上国で2年間、自分のもつ技術を生かしてボランティア（仕事）をする

☆見返りを求めることなく、自ら進んで途上国の国作りに自分のもつ力を注ぐ

☆2年間は現地の住民となり、現地の人と同様に生活することが求められる



2. なぜ参加したのか？

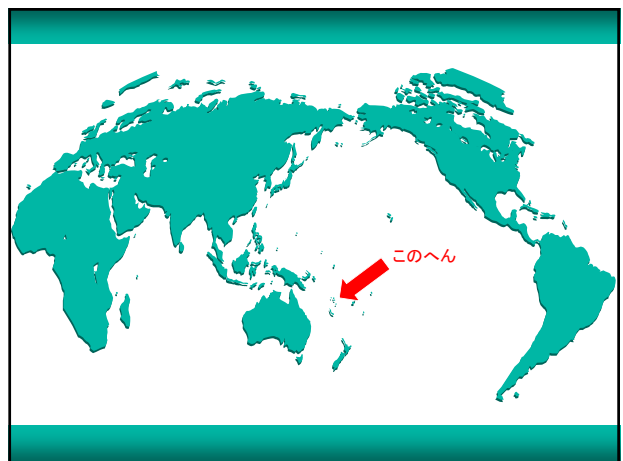
大学生の時から夢だった

昔、外国人にお世話になった恩返しをしたかった

教科書の中だけでない本物のいろんな世界を実際に見てみたかった

厳しい生活の中に身を置いて強くなりたかった

3. ソロモンってどんな国？





(正式名称)

ソロモン諸島国



(面積)

29785平方km(四国の約1.6倍)

(人口)

53万8千人 (05年7月のデータ)

民族 メラネシア系(94%)
ポリネシア系(4%)
ミクロネシア系
ヨーロッパ系
アジア系

気候 熱帯モンスーン気候

言語 ピジン語

(ピジン語会話)

A: 「先生、こんにちは」

B: 「こんにちは」

A: 「調子はどうですか？」

B: 「順調 順調、元気にやってる。先生は？」

A: 「おかげさまで元気にやっています。」

ありがとうございます^^

(通貨)

ソロモンドル (1ドル=約15円)

貝殻



(時差)

日本より2時間早い

(経済)

国民の75%は自給自足

第1産業(コブラ、魚、木材)が中心の経済

(歴史)

第2次世界大戦の激戦地だった

ガダルカナル島＝餓島

日本軍が建設した飛行場のとりあいで
激戦を続けながら日本が次第に島の西へと
撤退する間、多くの将兵がマラリアや餓死に
より倒れた



4. ソロモンで何をしてきたのか？

学校で家庭科教師として働く

村の女性に裁縫と料理を指導

地震被害支援や清掃活動

原始的な生活

学校の様子



授業の様子(調理実習)





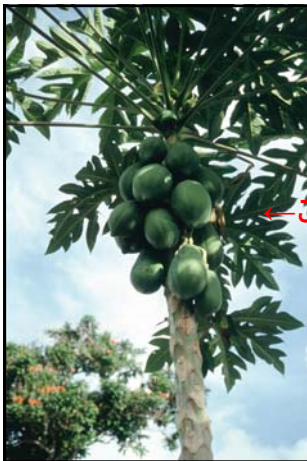




質問1

←これはある食べ物の“花”です

一体何の食べ物の花でしょうか？



質問2

←これは何という果物の
の実でしょうか？



最後の質問

←これは何の果物でしょうか







ソロモンで重視される文化

ワントク(wan-toku)
「同じ言葉話す仲間」の意

助け合い、分かち合うのが当然という意味が含まれ、ワントクなら無償で協力しなければならない

ソロモンで過ごした日々を振り返って・・・



ソロモンで困ったこと

何度も食中毒になった

皮膚病になり、全身の皮がめくれ脱皮した

虫さされがかゆくて眠れない日がよくあった

痛いくらい日焼けをした

泥のぬかるんだ道は裸足でないと歩けず、しかもよくこけた

トラックを買ってくれたのまれた

若い男にだまされ、おそれそうになった

ソロモンに行って世界がかわったか

→かわった

ソロモンに行ってよかったこと

のんびり暮らすのいいもんだと思った

ソロモンという国を生まれて初めて知れた

自分のしたことでも喜んでくれた人々がいた

一生の心の友ができた

不便ななかでも明るく生きる人々の姿をまのあたりにし、日本人である自分はもっと頑張らな
いといけないと思えた

今を精一杯生きることのすばらしさと大切さを知った

人のあたたかさを知った

家族を大切にする思いが芽生え、強くなった

日本のよい面や問題点が見えるようになり、日本を大切にしたいと思うようになった



ソロモンで活動中の 他の日本人ボランティアたち



5. 帰国後の活動

学校交流プロジェクト

(目的)

日頃机上で学んでいる外国の生活について、実際に文化や環境の異なる同世代の交流の中で学び、考え、自分たちの生活を振り返るきっかけとする。

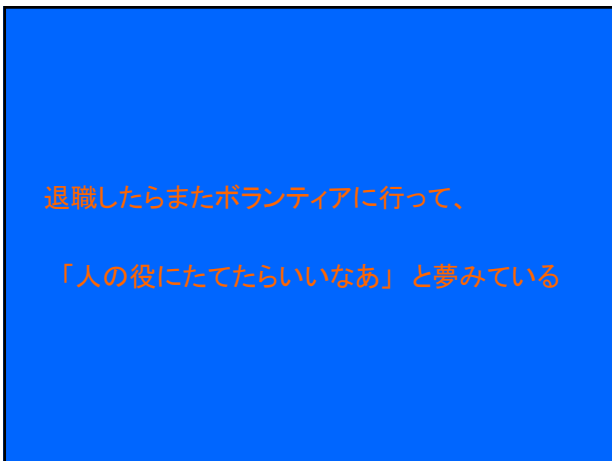
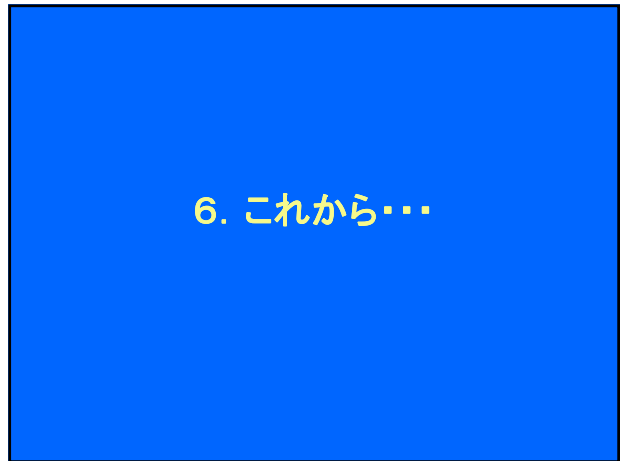
計画

- 第1回 自己紹介
- 第2回 国紹介
- 第3回 環境問題についての意見交流
- 第4回 1～3回の交流で学んだことと感想

- 交流手段は文通、言語は英語を使用
- 期間は学校運営の都合で4ヶ月サイクルとする



←ソロモンに送る日本紹介
パネルを作成中



地球温暖化で沈むといわれている国、
“キリバス”で見たもの・・・



あなたの行く先に広がる世界は
どんな世界でしょう？



ご静聴ありがとうございました

END